巻頭特集

千里ジュニア合奏団

音楽を通して、仲間と一緒に成長を

大切なのは、弦楽器のスキルよりも、「みんなと音を合わせようという〝気持ち〟」。約30年前の自然消滅を経て、熱い思いで再結成された『千里ジュニア合奏団』、そこには、合奏を通じて、子どもたちが人間として成長できる環境があった。

子どもたちが、弦楽器の〝真の楽しさ〟を感じる場所

小さな手で、真剣な眼差しで、一生懸命バイオリンを弾く子どもたち。ここは、『千里ジュニア合奏団』（以下「同団」）の練習会場。関西では珍しい〝オーケストラのプロによる指導〟が行われるサークルで、現在団員は13名、指導者を含む4名の世話役で構成されている。実は、同団は約30年前に一度自然消滅している。そこから「もう一度復活を」という前身の主宰者の強い願いにより、現在代表を務める深田志保さんが中心となって復活させた。同団のポリシーは、「子どもたちが無理なく自然に楽器を続けられる場所であること」。楽器が弾けると、人生の楽しみが広がる。ただ残念なことに、子どもたちの多くはその楽しみを知る前に楽器を諦めてしまうそうだ。きっかけは受験や部活動。しかしそれだけではない。「例えばピアノなら、10本の指を使って一度に多くの音が出せます。でも弦楽器は、一度に出せる音は一つ。だから、1人で練習していると、どうしても飽きて嫌になってしまう（笑）。

▲ 前身の『千里ジュニア合奏団』の定期演奏会（昭和61年9月）

▲ 指導を行うのは、音楽家の庄司 拓先生（左写真）と大槻桃子先生（右写真）。指導経験も豊富で、各子どものペースやレベルに合わせてわかりやすくレクチャーすることで、上達をサポート。「合奏の楽しさ」を子どもたちへ伝える、“オーケストラのプロ”だ

せっかく弦楽器を始めたのに、もったいないですよね」（深田さん）。そんな子どもたちが〝本当の楽しさ〟を感じられるのが、合奏だ。みんなで演奏すると、多くの音が共鳴する。弦楽器が何倍も何十倍も楽しくなる。

さらに、先生から教えられるだけでなく、子どもたち同士でもアドバイスし、互いの成長を助け合う。同団は、技術力だけでなく、社会性や協調性も育んでいるのだ。

〝仲間と音を合わせよう〟という気持ちを培う練習

月2回、日曜か祝日の午前中に『青少年活動サポートプラザ』等で練習を行う同団。この日の練習曲は、宇宙をテーマにした『スペースアタック』だ。「短い音を弾くときは、〝広い宇宙にある小さな星〟をイメージしてね！」、「長い音は、宇宙空間を想像しながら弾きましょう」等、庄司先生も大槻先生もわかりやすく説明。想像力を働かせ、そして仲間の音を意識しながら、子どもたちは奏でる。「そうやってリズム・バランス・音程が合ったときは、感動すら味わえるんです」と深田さん。実際、「バイオリンを弾いていて、どんなときが楽しい？」と聞くと、子どもたちは「みんなとリズムが合ったとき！」、「テンポの速い曲を、みんなで一緒に演奏し終わったとき！」等、〝みんな〟という言葉を使って返答。まだ幼いながら、〝弦楽器の本当の楽しさ〟をしっかり感じ取っているようだ。

さらに、指導方法にも工夫が凝らされている。オーケストラの中で、バイオリンは「第一バイオリン」と「第二バイオリン」の2パートに分かれる。しかし「楽しく自由に合奏して欲しい」との思いから、子どもたちには好きなパートを選ばせているそうだ。また、〝合奏をまとめる役割〟を担う「コンサートマスター」は、通常「第一バイオリン」の〝首席奏者〟が担当するが、同団では子どもたちが順番で担当する。理由はもちろん、子どもたちの可能性を伸ばすためだ。しかし、「子どもたちが〝合奏を楽しむこと〟が第一」という考えから、練習は一切強要しない。あくまでも、子どもたちの自主性に寄り添う指導法をとっている。

もう一度、単独演奏会を。そして地域に愛される存在へ

同団の目標を深田さんに聞くと、「前身の『千里ジュニア合奏団』のように、単独の演奏会を開くことです」。そのためには演奏できる曲目も増やさなければならないが、子どもたちは「演奏会に向けて、練習を頑張ります！」と前向きだ。

そして、もう一つの目標は「地域に応援してもらえる合奏団になること」。同団は、一般市民がオーケストラの楽しさを体感できる独自のイベント「みんなで弾くと楽しいよ」を企画・開催している。〝オーケストラのプロ〟から直々に合奏を教えてもらえる機会とあって、音楽を嗜む地域住民らで毎回盛り上がるそうだ。また、高齢者施設への訪問演奏等、地域からの依頼に応じた演奏活動も行う。なかでも高齢者施設では、同団の演奏に感動したお年寄りが、子どもたちに握手を求めるシーンも。自分たちが奏でた音楽で人の心を感動させたという実感は、子どもたちの今後にとって、非常に大きな糧となるだろう。

現在、高校受験を控え練習を休んでいる団員2名も、受験を終えたら同団に再合流する予定。同団の奏でる音楽が深みを増し、より多くの地域住民の心を癒す存在となる日も、そう遠くはないようだ。

「吹田市民音楽祭」へは毎年参加（上写真）。人前で緊張もするが、みんなと一緒だから楽しい！左写真は、「みんなで弾くと楽しいよ」の模様。一般市民が“オーケストラのプロ”に合奏を教わることができる貴重な機会だ

▲ 高齢者施設への訪問演奏の様子

取材協力

千里ジュニア合奏団

HP：http://senri-junior.com

♫ 新入団員募集中 ♪

18歳以下で楽器を持っていれば誰でもOK。
見学・体験も大歓迎！
詳細はHPにて！

文／斉藤紀子　デザイン／小林亜由　写真／Ayami